

あいち農産物生産流通レポート

2023年9月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・「あいち型植物工場環境制御ガイドライン」をリニューアル (農業総合試験場)	1
◎ 地域トピックス	
・県内トップを切って新米出荷！あいち米初出荷式が開催されました！ (海部農林水産事務所)	2
◎ 東日本情報	
・愛知の醸造文化を伝える講演会が開催されました (東京事務所)	3
◎ 西日本情報	
・農山漁村発イノベーションの取組について (食育消費流通課)	5
◎ 青果	
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	7
・名古屋・東京市場における青果物の9月の見通し	8
◎ 花き	
・切花・鉢花の9月の見通し(県内市場)	20

※今月、「フラワーページ」はありません。

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

「あいち型植物工場環境制御ガイドライン」をリニューアル

農業総合試験場

愛知県では、太陽光を利用した施設で、施設内の温度、湿度、二酸化炭素（CO₂）を常時モニタリングしながら環境を制御する「あいち型植物工場」の普及を進めています。農業総合試験場では、「あいち型植物工場」における高収益生産技術を開発するため、愛知県経済農業協同組合連合会及びトヨタネ株式会社と共同研究を行い、その成果を2019年3月に「あいち型植物工場環境制御ガイドライン（トマト、ナス、イチゴ）」として公表しました。

このたび、共同研究の進展に伴い、記載品目にミニトマトを加えるとともに、新たな研究成果をもとに管理のポイントを追記し、「あいち型植物工場環境制御ガイドライン（トマト、ミニトマト、ナス、イチゴ）」（2022年3月公表）に改訂しましたので、その概要を紹介します。

1 トマト・ミニトマトの改訂内容について

①給液濃度を変えたトマトの栽培管理（低濃度の養液の給液により生育初期の草勢を制御し、収量が向上）、②ミニトマトの特性に応じた環境制御下における栽培管理（摘葉強度の差による葉面積の推移と側枝を利用した収穫枝の増枝が、収量や作業性に及ぼす影響を明確化）等を記載しました。



ミニトマト栽培試験の様子

2 ナスの改訂内容について

①費用対効果が高い変温管理（後夜半低温管理と日中加温を組み合わせた変温管理により、収量と燃油消費量から算出した収益性が向上）、②着果数に応じた収穫果実重の変更管理（着果数が多い場合に小果で収穫することにより、収量の変動幅を減少させ、労力分散が可能）等を記載しました。



ナス栽培試験の様子

3 イチゴの改訂内容について

①費用対効果をも高める温度管理（慣行の温度管理に加えて早朝又は夕方加温を行うことにより、燃油消費量は増加するが、厳冬期の収量増加で収益性が向上）、②日射比例給液管理（日射量に応じて給液量・頻度を管理することにより、タイマー制御に比べて収量が向上）等を記載しました。



イチゴ栽培試験の様子

4 関連資料

ガイドラインでは、主な栽培のポイントの他、品目ごとに環境制御指針及び経営モデルをまとめています。また、施設の環境制御に必要な最新の機器・資材の情報についても紹介しています。

なお、ガイドラインは、県農業総合試験場 Web ページ (<https://www.pref.aichi.jp/nososi/>) の「研究の成果（技術情報）－ 技術情報の一覧（野菜）」から入手可能です。

県内トップを切って新米出荷！ あいち米初出荷式が開催されました！

海部農林水産事務所

愛知県では、8月上旬から10月にかけて「あいちの新米」の収穫が続きます。早場米の産地である弥富市鍋田地区では、2023年8月10日（木）に県内のトップを切って今年の新米が出荷されました。

この日、JA あいち海部鍋田集出荷場で、JA あいち海部と JA あいち経済連の主催により、あいち米の初出荷式が開催されました。初出荷式には、管内の関係者のほか、鈴木農業水産局長などの県関係者も臨席しました。

一日検査員を委嘱された JA あいち海部広報大使の「れんたろう」による出荷米の検査、出席者によるテープカットなどのセレモニーが行われた後、「あきたこまち」6,159袋（1袋 30 kg）を積んだトラックが集出荷場から出発しました。出荷された米はすべて1等米で、11日以降、県内のスーパーなどで販売されます。

JA あいち海部鍋田地区は、水稻生産出荷農家が129名、作付面積585haのうち「あきたこまち」と「コシヒカリ」が8割近くを占める早場米の産地で、「あきたこまち」を皮切りに水稻の収穫が始まっています。本年産の「あきたこまち」は、高温や日照不足など気象条件の厳しい時もありましたが、生産者の適切な栽培管理により、順調に生育が進み、作柄は平年並みで、品質は良好です。



1日検査員に委嘱された「れんたろう」



出発式のテープカット



出荷を待つ「あきたこまち」



新米を乗せたトラック

愛知の醸造文化を伝える講演会が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

愛知の多種多様な発酵調味料の魅力を首都圏に伝えるための講演会が 2023 年 8 月 2 日 (水) に東京都千代田区で開催されましたので、その概要をお伝えします。

1 開催概要

一般社団法人和食文化国民会議による各地の郷土料理や和食文化を掘り起こす活動の一環として、JR 秋葉原駅の近くの「富士ソフトアキバプラザ」を会場として開催されました。『「愛知」の豊かな醸造文化』と題した講演会には、愛知県在住の醸造関係者 3 名が講師として登壇し、それぞれの立場で愛知の醸造文化について講演を行いました。

2 講演内容

(1) 「気候風土と歴史が生み出す八丁町（旧八丁村）の「八丁味噌」

講師：合資会社八丁味噌（屋号：カクキュー）企画室長兼品質管理部長 のむらけんじ 野村健治 氏

- 愛知県岡崎市八丁町では、江戸時代から 2 社が八丁味噌を造り続けている。八丁味噌の名称は岡崎城から西へ八丁（約 870m）の距離にある旧八丁村に由来する。
- 旧八丁村は矢作川の舟運と旧東海道が交わる水陸交通の要所であった。江戸時代には船着き場と塩座（塩の専売）があり、舟運を利用して原料の大豆や塩を調達でき、味噌造りの条件が揃っていた。また、多くの川に挟まれた高温多湿な土地であるため、保存性を高めるために通常よりも水分の少ない固い味噌が作られるようになった。
- 八丁味噌の製造では、仕込む水の量が通常の味噌より少ないため、水分が全体に行き渡るように原料を計 6 トン仕込んだ木桶の蓋の上に石を 350 個、計 3 トン積み上げる。重しが少ないと水分だけが下がり、原料の上の部分がカビたり腐ったりする。
- 八丁味噌は、大豆と塩と水のみで作られるため、原料による分類は豆味噌である。色による分類は赤味噌であるが、ほぼ黒色である。水分が少ないので固く、大豆の濃度が高いためコクがある。旨味重視の味噌なので味噌煮込みうどん等の加熱料理に強い。



(2) 「両極の醤油を使い分ける愛知の醤油文化」

講師：日東醸造株式会社 代表取締役社長 にながわよういち 蜷川洋一 氏

- 溜たまり醤油は豆味噌が仕込まれた桶に溜まった液体が始まりだと言われている。濃口醤油、淡口醤油、溜醤油、再仕込醤油、白醤油の 5 種類の醤油の中で、最も色が濃く、最も旨味が強く、豆味噌のような香りがする醤油である。



- 白醤油は、幕末から明治の初めの頃に初めて今の碧南市の地域で作り始められた。白醤油は小麦で仕込んだ金山寺味噌の桶に溜まった上澄みがヒントになったと言われており、ビールのような極端に色の薄い醤油である。白醤油は板前専用として 200 年ほど続いており、今でも圧倒的に業務用の使用が多い。家庭では年末におせち料理を作る時ぐらいしか使われない。
- 白醤油の原料は、日東醸造では小麦が 95%、大豆が 5% であり、小麦が圧倒的に多い。旨味成分は大豆由来が多いため、白醤油の味は醤油らしくない。
- 板前は、料理によって溜醤油と白醤油を使い分けている。溜醤油を使うと料理が黒くなるため、色を付けたくない料理には白醤油が使われる。溜醤油は強い旨味が特徴なので、魚の臭みを消すのに向いており、刺身用、鰻の蒲焼きのタレのベースとして使われている。白醤油は醤油っぽくないのが特徴なので、醤油の味を付ける使い方ではなく、色合いを活かしながら素材の味を上手く残した味付けをするのに向いている。白醤油が合う料理としては、茶碗蒸し、玉子焼き等がある。

(3) 「愛知の発酵調味料と郷土料理」

講師：小判天はなれ 日本料理 一灯 長田勇久 氏

- 郷土料理は地元の食材を地元の調味料で味付けして食べてきたものである。
- 溜醤油、白醤油、みりん、酢、酒、味噌、これらが揃った地域は愛知以外にない。その要因としては、気候が温暖、農地が多くて原料の供給が安定的、西尾市（旧吉良町）で塩が生産されていた（饗庭塩）、日本酒の製造が盛んで酒粕がみりと酢の製造に繋がった、出来た物を運ぶ川に近かったということが挙げられる。
- 愛知の郷土料理は白いか黒いかのどちらかであり、どちらかと言えば黒い料理が多い。黒い料理の代表は、八丁味噌で煮た味噌煮込みうどん、溜醤油で煮た鶏のすき焼き・ハゼの佃煮・鶏めしが挙げられる。料理の基本は「さしすせそ」（砂糖・塩・酢・醤油・味噌）で、味噌は最後に入れて煮立たせるなどと言われているが、煮込んでも香りが飛ばない八丁味噌があったからこそ味噌煮込み料理が誕生した。白い料理の代表は、白醤油又は白だしを使った雑煮、きしめん、箱ずし、ひつまぶしが挙げられる。箱ずしに白醤油が使われている理由は、具材を綺麗に仕上げるためである。



3 まとめ

講演会では、参加者に八丁味噌の味噌汁と白醤油の吸い地が配付され、参加者は講演を聴くだけではなく、愛知の発酵調味料の特徴を体験できました。このため、愛知の醸造文化への理解を深めやすかったと思われます。今回の講演会をきっかけに、愛知の醸造文化や独特の発酵調味料の魅力が首都圏在住の人達に一層伝わることを期待したいです。



参加者に配付された味噌汁と吸い地

農山漁村発イノベーションの取組について

食育消費流通課

農山漁村発イノベーションとは、これまでの6次産業化を発展させて、地域の文化・歴史や森林、景観など農林水産物以外の多様な地域資源も活用し、農林漁業者はもちろん、地元の企業なども含めた多様な主体の参画によって新事業や付加価値を創出する取組です(図)。本県では、農山漁村振興交付金を活用し、農林漁業者等の農山漁村発イノベーションの取組を支援しています。

1 事業の内容

(1) サポートセンターの設置

愛知県農山漁村発イノベーションサポートセンターにおいて、経営改善に関する相談を受け付け、アドバイス等を行うほか、専門家(地域プランナー)を派遣して経営改善等を支援します。

6次産業化等の取組を実践できる人材を育成する研修会を開催します。

(2) イノベーションの取組への助成

ア 農山漁村発イノベーション推進支援事業

(ア) 内容

農林水産物や多様な地域資源を活用した商品・サービスの開発、研究開発等の取組支援。

(イ) 交付率

交付対象事業費のうち、1/2以内または定額。

(ロ) 事業実施主体

農林漁業者等、商工業者の組織する団体、民間事業者、市町村等

イ 農山漁村発イノベーション整備事業(産業支援型)

(ア) 内容

農林水産物加工・販売施設等の整備支援。

(イ) 交付率

交付対象事業費のうち、3/10以内または1/2以内。

(ロ) 事業実施主体

六次産業化・地産地消法又は農商工等連携促進法に基づく事業計画の認定事業者

2 問合せ

(1) サポートセンターに関すること

愛知県農山漁村発イノベーションサポートセンター((株)アルファポイント内)
電話番号:052-253-8323(サポートセンター専用)
FAX:052-262-9115

(2) イノベーションの取組への助成に関すること

- ・愛知県農業水産局農政部食育消費流通課
電話番号:052-954-6719
- ・各農林水産事務所農政課

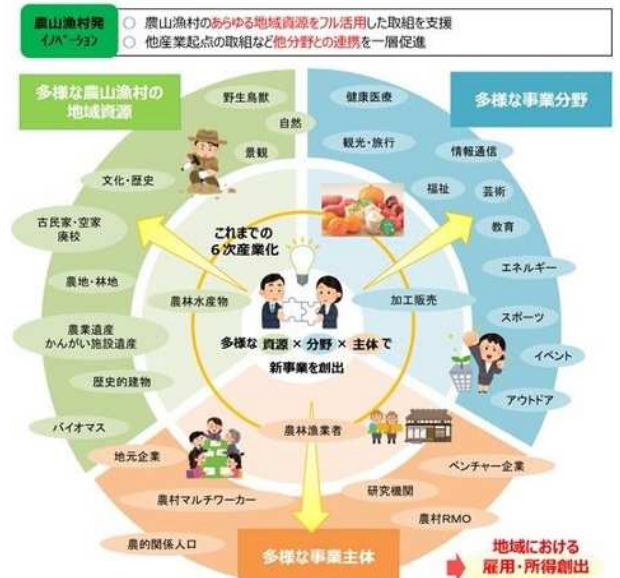


図 農山漁村発イノベーション概念図

※農林水産省 Web ページから引用

愛知産青果物の動向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ±1%台以下
 わずか : ±2%台以内
 や や : ±3～5%台
 かなり : ±6～15%台
 大 幅 : ±16%以上

○ 名古屋市中央卸売市場（品目：いちじく）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	愛知産	前年主要産地 (上位3産地)
2022年実績	382	381 (100%)	1,061	1,061	愛知(100%) —
2023年見通し	370	—	1,060	—	—
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>ほぼ全量を愛知から入荷する。お盆の台風の影響で入荷が不安定な時期もあったが、おおむね前年並の入荷を予想。今後の天候に大きな変動がなければ、2L中心で、順調な入荷見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。</p>			<p>毎年のように8月上～9月中旬頃の天候不順が出荷量に大きな影響を与えており、産地は苦勞されていると思う。 本年はお盆に台風の影響で、出荷が不安定になった。9～10月にも台風やゲリラ豪雨等の天候の影響で、収量や品質が落ちる恐れもある。引き続き品質維持をお願いしたい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：ぎんなん）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	愛知産	前年主要産地 (上位3産地)
2022年実績	297	118 (40%)	1,582	1,863	愛知(40%) 茨城(10%)
2023年見通し	290	—	1,600	—	静岡(9%)
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知産は8月下旬から始まり9月から本格的に入荷する。主要品種の着果量は「久寿」は前年より少ないが、「藤九郎」は前年並。大粒傾向で3L中心の入荷が見込まれる。前半の入荷量は前年並、後半は前年をやや下回ると見込まれる。 今年はコロナ禍が明け、外食等の業務需要が期待でき、価格は堅調に推移するものと思われる。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並となる見込み。</p>			<p>ぎんなんは秋の味覚として業務用を中心に人気が高く、量販店でも10月～11月に需要が強まる。 愛知産は品質・選別ともに良好で、今後も継続した取組をお願いしたい。 9月は高温、多湿の日が多く、カビの発生が懸念されるため、出荷に際しては選別や品質保持の徹底をお願いしたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の9月の見通し

名古屋市中央卸売市場

8月17日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2018年	32,706	257	265	262	242	北海道 43%
	2019年	34,117	231	235	239	216	長野 25%
	2020年	36,067	217	222	211	217	群馬 8%
	2021年	34,120	252	246	271	242	茨城 5%
	2022年	34,990	237	238	243	231	青森 5%
	5カ年平均	34,400	239	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	34,900	230	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道、長野を中心に入荷する。根菜類を除く野菜全体で、高温、干ばつの影響により生育が停滞しているため、入荷量は減少傾向。 入荷量は前年並、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>							
だいこん	2018年	1,997	113	118	118	111	青森 58%
	2019年	2,045	83	84	80	91	北海道 29%
	2020年	1,653	111	120	102	115	岐阜 13%
	2021年	1,907	114	94	134	119	長野 1%
	2022年	1,643	150	158	142	153	
	5カ年平均	1,849	113	113	114	116	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,700	115	110	115	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>青森、北海道を中心に入荷する。昨年は長雨の影響で、8、9月の入荷が少なかったが、今年は順調な生育で入荷量が増える見込み。コスト高による産地の指値の要請が強すぎると、販売が厳しくなる予想。 入荷量は前年をやや上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>							
にんじん	2018年	1,773	194	157	202	218	北海道 99%
	2019年	2,134	118	127	129	103	中国 1%
	2020年	2,432	114	112	120	110	
	2021年	2,620	110	119	120	96	
	2022年	1,777	198	214	238	158	
	5カ年平均	2,147	141	141	155	131	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,100	130	130	130	130	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道を中心に入荷する。8月は小玉だったが、9月はL中心の出荷に変わる見込み。去年のように長雨などが無ければ、潤沢な入荷を見込む。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

8月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2018年	121,299	282	289	290	267	北海道 29%
	2019年	124,781	257	269	255	246	長野 18%
	2020年	120,742	249	252	242	254	群馬 17%
	2021年	115,662	285	272	307	280	茨城 8%
	2022年	120,790	265	268	267	261	青森 5%
	5カ年平均	120,655	267	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	118,000	270	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 北海道のばれいしょ及びたまねぎ、群馬のキャベツは概ね生育順調。高温が続く予報のため葉物の生育への影響が懸念される。 【概況見通し】 入荷量：前年をわずかに下回る。(▲2.3%) 価格：前年並。(+1.9%)							
だいこん	2018年	10,201	115	126	114	108	北海道 54%
	2019年	10,109	87	92	78	91	青森 37%
	2020年	8,558	107	115	97	111	群馬 4%
	2021年	8,977	109	96	117	113	神奈川 3%
	2022年	8,023	143	152	138	140	岩手 1%
	5カ年平均	9,174	111	115	108	111	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	7,900	115	125	110	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は北海道、青森となる。高温による生育停滞や品質低下が生じており、全体の入荷量は多くないと見込まれる。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(▲1.5%) 価格：前年を大幅に下回る。(▲19.6%)							
にんじん	2018年	6,148	183	151	190	207	北海道 96%
	2019年	7,122	120	115	124	120	中国 3%
	2020年	7,075	116	114	112	123	
	2021年	7,789	111	118	115	102	
	2022年	6,215	209	217	218	192	
	5カ年平均	6,870	145	140	148	145	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	6,100	145	150	145	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は北海道となる。高温による生育停滞や品質低下が生じており、全体の入荷量は多くないと見込まれる。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(▲1.9%) 価格：前年を大幅に下回る。(▲30.6%)							

名古屋市中央卸売市場

8月17日 現在

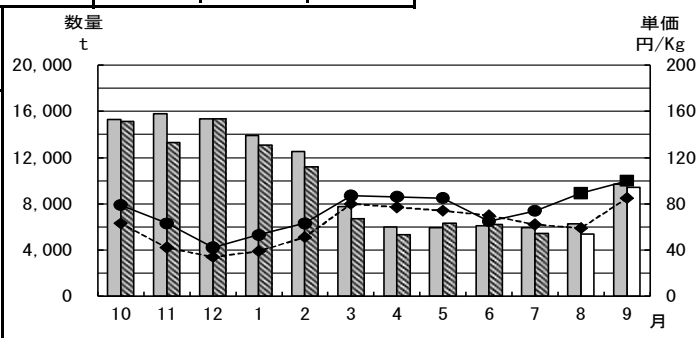
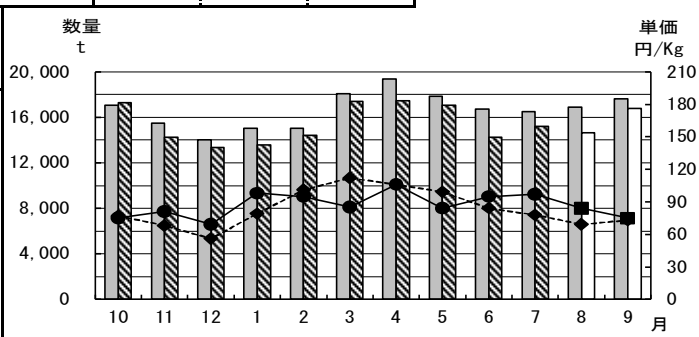
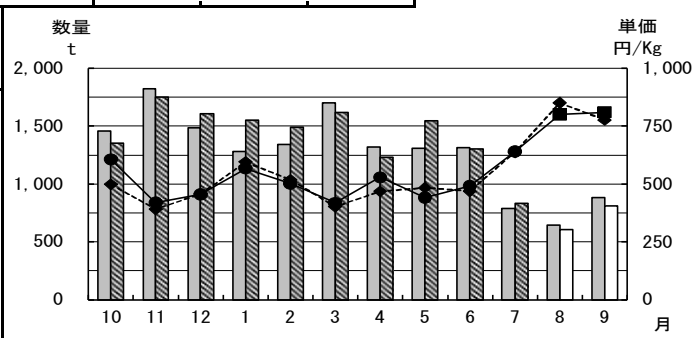
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ほうき	2018年	2,468	113	99	108	127	長野 100%	
	2019年	2,826	104	132	90	96		
	2020年	3,028	90	107	82	85		
	2021年	2,383	131	101	178	124		
	2022年	2,829	85	75	87	94		
	5ヵ年平均	2,707	103	103	106	104	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2023年見通し	2,700	100	100	100	100			
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 t				単価 円/kg
	長野からほぼ全量を入荷する。現在、高温、干ばつで生育停滞状況のため、入荷量少ないが、今後の天候によって、大きく状況が変わる見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。							
キヤベツ	2018年	4,851	85	84	87	85	群馬 54%	
	2019年	4,216	95	102	100	87	長野 30%	
	2020年	4,365	110	127	106	100	北海道 13%	
	2021年	4,507	102	89	106	112	茨城 2%	
	2022年	4,406	79	75	75	88	岩手 1%	
	5ヵ年平均	4,469	94	95	95	94	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2023年見通し	4,400	80	80	80	80			
ほうれんそう	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 t				単価 円/kg
	群馬を中心に長野、北海道などから入荷する。群馬と長野は生育良好で、順調な入荷見通し。業務中心に荷動きは良いが、7、8月期に雨が少なく、出荷と生育にムラが出たため、9月期も多少出荷にムラがある見込み。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。							
ほうれん	2018年	145	892	867	966	872	岐阜 90%	
	2019年	166	839	932	833	793	茨城 3%	
	2020年	151	946	892	999	973	長野 2%	
	2021年	205	881	980	1,001	757	愛知 1%	
	2022年	178	888	916	889	895	群馬 1%	
	5ヵ年平均	169	888	922	938	851	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
2023年見通し	160	900	900	900	900			
ほうれん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し			数量 t				単価 円/kg
	岐阜を中心に、一部茨城や長野などから入荷する。8月の高温の影響により生育不良になり、平年よりも少ない出荷数となる予想。給食が始まれば、価格も高値で推移する見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並の見込み。							

東京都中央卸売市場

8月31日現在

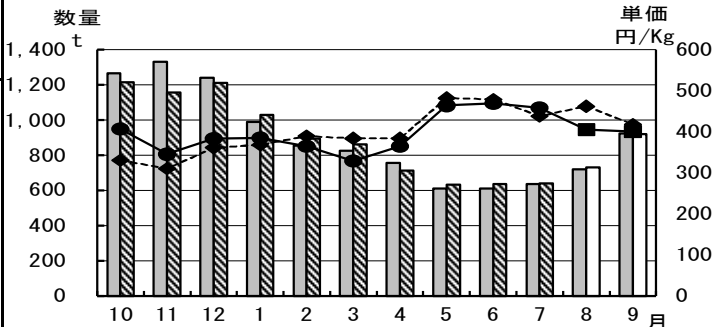
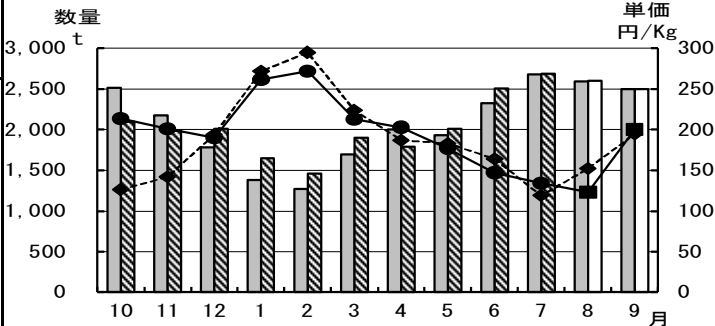
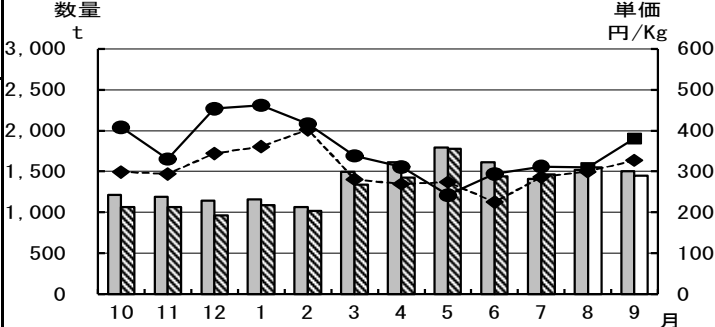
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2018年	10,869	111	103	106	122	長野 94%
	2019年	10,177	101	92	90	126	北海道 3%
	2020年	9,590	96	109	85	96	群馬 2%
	2021年	8,350	150	118	199	143	茨城 1%
	2022年	9,708	85	72	85	96	
	5ヵ年平均	9,739	107	98	110	116	
	2023年見通し	9,400	100	110	95	95	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は長野となる。一部地域で高温・干ばつの影響により結球に遅れが見られる。中下旬は長野の出荷ピークとなる。							
【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(▲3.2%) 価格：前年を大幅に上回る。(＋17.6%)							
キヤベツ	2018年	16,827	78	75	80	79	群馬 81%
	2019年	16,788	93	102	95	82	長野 8%
	2020年	15,430	120	145	111	103	岩手 7%
	2021年	16,724	107	89	114	119	茨城 2%
	2022年	17,619	73	67	68	83	千葉 1%
	5ヵ年平均	16,678	94	95	93	93	
	2023年見通し	16,800	75	80	75	70	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は群馬で、生育は順調。主要産地はいずれも台風の被害はなく、十分な入荷量が見込まれる。							
【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(▲4.6%) 価格：前年をわずかに上回る。(＋2.7%)							
ほうれんそう	2018年	790	798	770	987	666	群馬 40%
	2019年	832	797	879	814	725	栃木 23%
	2020年	651	929	858	1,073	883	茨城 17%
	2021年	875	806	991	945	638	岩手 6%
	2022年	884	777	819	795	726	岐阜 5%
	5ヵ年平均	806	816	865	914	720	
	2023年見通し	810	810	800	850	780	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 高温が続く、各産地の生育は停滞傾向であるが、出荷量には大きく影響しないと見込まれる。							
【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(▲8.4%) 価格：前年をやや上回る。(＋4.2%)							

名古屋市中央卸売市場

8月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2018年	773	500	472	533	494	北海道 54%
	2019年	962	376	373	362	399	長野 23%
	2020年	816	407	367	414	443	茨城 4%
	2021年	932	404	394	433	401	富山 4%
	2022年	923	418	427	403	430	中国 3%
	5ヵ年平均	881	418	405	425	431	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	920	400	400	400		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、長野などから入荷する。ねぎについて、愛知産は減少傾向で、北海道産はピークを迎える見込み。白ねぎは、長野産、富山産が出揃いピークを迎える見通し。</p> <p>入荷量は前年並、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
しそ	2018年	2,371	192	179	198	202	長野 95%
	2019年	2,474	199	199	216	185	茨城 5%
	2020年	2,837	128	133	117	135	
	2021年	1,887	274	259	342	247	
	2022年	2,498	195	172	215	208	
	5ヵ年平均	2,413	192	183	209	191	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,500	200	190	210	210	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野からほぼ全量を入荷する。生育作柄は順調だが、天候により大きく左右される予想。高冷地産は9月中旬ごろまでが山で、そのあとは徐々に減少傾向となる見通し。</p> <p>入荷量は前年並で、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>					
きゅうり	2018年	1,300	431	428	456	407	長野 35%
	2019年	1,472	339	409	312	290	北海道 26%
	2020年	1,478	375	340	377	415	山梨 15%
	2021年	1,403	395	435	439	334	群馬 14%
	2022年	1,501	327	369	305	304	山形 2%
	5ヵ年平均	1,431	372	395	375	349	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,450	380	370	380	390	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に北海道などから入荷する。高温の影響と成りづかれにより、9月上旬は減少傾向。夏秋産地の出荷は多くなく、切り上がりも早まる見込み。</p> <p>入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

8月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2018年	4,479	484	454	535	465	秋田 23%
	2019年	4,662	385	353	389	412	北海道 19%
	2020年	4,153	411	348	401	485	青森 17%
	2021年	4,513	381	393	411	348	茨城 10%
	2022年	4,674	442	449	424	452	山形 7%
	5ヵ年平均	4,496	421	400	432	431	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	4,600	360	380	350	350	
ねぎ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は秋田、北海道、青森となる。各産地とも高温・干ばつの影響で肥大が鈍く、細物傾向となっている。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年並。(▲1.6%) 価格：前年を大幅に下回る。(▲18.6%)</p>						
しそ	2018年	8,345	197	186	206	199	長野 83%
	2019年	8,928	199	206	213	177	群馬 10%
	2020年	9,824	122	128	109	129	茨城 5%
	2021年	7,117	303	284	399	257	岩手 1%
	2022年	9,209	202	184	231	197	千葉 1%
	5ヵ年平均	8,685	199	193	222	188	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	8,800	150	140	150	160	
しそ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 入荷先の主体は長野となる。高温・干ばつの影響で生育は停滞傾向であるが、十分な入荷量が見込まれる。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(▲4.4%) 価格：前年を大幅に下回る。(▲25.7%)</p>						
きゅうり	2018年	6,719	395	406	410	361	福島 29%
	2019年	7,946	309	398	269	260	群馬 16%
	2020年	7,161	346	295	367	390	埼玉 11%
	2021年	6,813	362	407	406	299	岩手 10%
	2022年	7,610	284	334	257	257	茨城 8%
	5ヵ年平均	7,250	337	367	338	311	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	7,200	350	380	320	350	
きゅうり	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>【産地状況】 東北産は、夏秋作が終盤で徐々に減少。一方で、抑制作が出荷を開始し徐々に増量するが、高温の影響でペースは鈍い見込み。</p> <p>【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(▲5.4%) 価格：前年を大幅に上回る。(▲23.2%)</p>						

名古屋市中央卸売市場

8月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2018年	549	408	355	486	414	愛知 30%
	2019年	789	360	354	365	368	山梨 29%
	2020年	670	356	288	359	446	徳島 15%
	2021年	584	434	395	520	416	群馬 9%
	2022年	658	326	301	302	391	茨城 6%
	5ヵ年平均	650	374	337	399	405	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	650	350	370	350	330	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知、山梨、徳島などから入荷する。7、8月の猛暑の影響から樹勢の低下もあり、夏秋なすについては出荷量は多くない見込み。入荷量は前年並で、価格はかなり上回る見込み。							
ト マ ト	2018年	1,195	530	590	499	494	岐阜 65%
	2019年	1,267	482	464	467	540	北海道 17%
	2020年	1,392	405	398	372	467	愛知 11%
	2021年	1,181	517	462	544	564	長野 2%
	2022年	1,414	470	442	452	530	茨城 2%
	5ヵ年平均	1,290	478	468	463	518	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,400	460	450	450	450	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
岐阜を中心に北海道、愛知などから入荷する。作柄良好で、北海道は前進出荷の見込み。9月以降の朝晩の気温が落ち着けば、需要も伸びてくる予想。入荷量は前年並、価格は前年をわずかに下回る見込み。							
ニ ン ジ ン	2018年	571	919	1,022	875	855	北海道 61%
	2019年	531	878	692	1,026	954	茨城 16%
	2020年	624	620	578	588	721	長野 10%
	2021年	512	986	938	962	1,071	愛知 6%
	2022年	566	883	874	855	931	大分 2%
	5ヵ年平均	561	850	815	852	899	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	550	900	900	900	900	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道を中心に茨城、長野などから入荷する。天候不順によって予想が難しく、台風の影響で大きく変わる見通し。7、8月の高温の影響から北海道は例年より少ない見込み。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並の見込み。							

東京都中央卸売市場

8月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2018年	3, 281	424	394	507	372	群馬 34%
	2019年	3, 662	372	340	371	416	栃木 26%
	2020年	3, 795	320	259	329	412	茨城 23%
	2021年	3, 147	402	349	509	377	高知 5%
	2022年	3, 922	288	283	262	330	埼玉 3%
	5カ年平均	3, 561	357	322	387	381	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	3, 500	300	300	300	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は群馬、栃木、茨城となる。高温と干ばつの影響で草勢が弱く、入荷量は前年を下回る見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(▲10.8%) 価格：前年をやや上回る。(＋4.2%)							
ト マ	2018年	6, 475	500	516	499	481	北海道 22%
	2019年	6, 321	463	473	412	532	福島 15%
	2020年	7, 018	374	354	339	461	千葉 15%
	2021年	5, 902	489	429	547	506	茨城 10%
	2022年	6, 371	470	452	448	518	群馬 9%
	5カ年平均	6, 417	457	443	446	499	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	6, 000	440	440	400	480	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は北海道、福島、千葉等となる。小玉傾向と高温障害により、入荷量は前年を下回る見込み。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや下回る。(▲5.8%) 価格：前年をかなり下回る。(▲6.4%)							
しいたけ	2018年	2, 037	873	996	830	782	北海道 34%
	2019年	1, 874	829	715	886	890	茨城 17%
	2020年	2, 113	602	569	570	684	千葉 13%
	2021年	1, 839	948	895	968	982	青森 10%
	2022年	1, 992	874	854	856	915	山形 8%
	5カ年平均	1, 971	821	803	816	846	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1, 980	820	820	810	830	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は北海道、茨城、千葉等となる。抑制作中心の入荷となる。高温の影響で草勢低下が見られる。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(▲0.6%) 価格：前年をかなり下回る。(▲6.2%)							

名古屋市中央卸売市場

8月17日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2018年	410	488	567	526	523	茨城 29%
	2019年	439	479	494	544	458	北海道 22%
	2020年	493	481	497	497	505	岩手 22%
	2021年	517	456	480	480	454	青森 15%
	2022年	506	404	461	455	424	長野 9%
	5ヵ年平均	473	460	497	498	471	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	450	460	460	460	450	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、北海道、岩手などから入荷する。高温干ばつの影響から、全体的に数量が少ない見込み。長野、岩手は高温などの影響で遅れており、今後、回復予想だが、台風の影響で変わる可能性がある。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
ばれいしょ	2018年	2,570	123	127	127	114	北海道 99%
	2019年	2,775	98	101	100	90	
	2020年	3,305	110	111	107	110	
	2021年	2,423	184	183	188	181	
	2022年	2,524	127	143	117	117	
	5ヵ年平均	2,719	126	131	126	121	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,800	120	130	120	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に入荷する。ほぼ全道の出荷が出そろい、入荷量は増えていく見込み。小玉傾向の予想。6月の干ばつ、7月の高温の影響で、一部そうかなどが見られる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
たまねぎ	2018年	5,044	99	101	105	95	北海道 99%
	2019年	4,870	80	82	81	77	中国 1%
	2020年	5,707	75	81	73	75	
	2021年	5,952	101	95	104	105	
	2022年	6,411	107	109	113	101	
	5ヵ年平均	5,597	93	94	96	91	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	6,000	100	100	100	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に入荷する。道内の各産地出揃い、安定した出荷見込み。早生種の出荷がピークを迎え、L大・L中心となる予想。 入荷量、価格ともに前年をかなり下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

8月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2018年	2, 156	434	455	419	427	岩手 41%
	2019年	2, 263	424	420	460	390	茨城 36%
	2020年	2, 476	428	416	423	450	福島 16%
	2021年	2, 494	417	420	427	406	青森 6%
	2022年	2, 737	338	367	335	311	千葉 1%
	5カ年平均	2, 425	406	413	410	394	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2, 500	410	420	390	420	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は岩手、茨城、福島となる。高温の影響で日焼果、尻腐果の発生が例年より多い。 【概況見通し】 入荷量：前年をかなり下回る。(▲8.7%) 価格：前年を大幅に上回る。(＋21.3%)							
ばれいしょ	2018年	6, 330	128	131	131	120	北海道 97%
	2019年	7, 129	107	113	110	99	青森 1%
	2020年	7, 545	118	117	118	121	茨城 1%
	2021年	6, 212	193	194	197	189	
	2022年	5, 822	142	160	140	125	
	5カ年平均	6, 608	136	141	137	130	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	6, 000	135	135	130	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は北海道となる。干ばつの影響で小玉傾向であるが、十分な入荷量が見込まれる。 【概況見通し】 入荷量：前年をやや上回る。(＋3.1%) 価格：前年をやや下回る。(▲4.9%)							
たまねぎ	2018年	9, 440	108	111	110	102	北海道 96%
	2019年	9, 118	84	85	86	82	中国 2%
	2020年	9, 635	83	87	82	79	ニュージーランド 1%
	2021年	9, 767	109	106	110	111	兵庫 1%
	2022年	9, 715	117	119	119	112	
	5カ年平均	9, 535	100	102	102	97	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	9, 600	95	90	95	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
【産地状況】 入荷先の主体は北海道となる。極早生・早生品種は概ね生育順調、中生品種以降は高温の影響で倒伏が早い傾向にある。 【概況見通し】 入荷量：前年並。(▲1.2%) 価格：前年を大幅に下回る。(▲18.8%)							

名古屋市中央卸売市場

8月17日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2018年	8, 5 2 3	4 3 1	468	426	414	長野 26%
	2019年	8, 4 6 2	4 4 1	439	414	429	フィリピン 18%
	2020年	7, 6 4 9	5 0 8	548	513	477	青森 8%
	2021年	8, 3 4 0	4 6 9	488	467	463	三重 6%
	2022年	9, 6 5 3	4 6 4	468	454	478	熊本 5%
	5ヵ年平均 2023年見通し	8, 5 2 5 8, 6 0 0	4 6 2 4 9 0	— —	— —	— —	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	ぶどう、なし、りんご、みかんを中心に 入荷する。ぶどうは、山梨産シャインの露 地ものがピークを迎え、山梨産が減り込ん でから長野産に切り替わる見込み。青森産 のつがるりんごは若干大玉傾向。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前 年をやや上回る見込み。						
みかん	2018年	1, 5 2 6	3 1 2	416	331	268	三重 55%
	2019年	1, 2 1 1	3 2 6	430	330	292	熊本 23%
	2020年	1, 3 3 1	3 5 2	459	375	300	宮崎 9%
	2021年	1, 4 1 7	3 2 0	451	339	278	佐賀 4%
	2022年	1, 1 3 8	3 5 1	565	347	302	愛知 4%
	5ヵ年平均 2023年見通し	1, 3 2 5 1, 2 1 0	3 3 1 3 3 0	460 500	344 350	287 300	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
みかん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	三重を中心に、熊本、宮崎などから入荷 する。極早生みかんは9月10日より前から宮 崎を皮切りにスタートする予想。九州は表 年のため入荷量多い見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前 年をやや下回る見込み。						
なし	2018年	1, 5 1 6	3 3 0	330	329	338	長野 59%
	2019年	1, 7 1 2	3 6 4	367	373	359	富山 13%
	2020年	1, 1 2 0	5 0 9	523	508	525	新潟 12%
	2021年	1, 3 3 8	4 2 9	439	409	448	愛知 7%
	2022年	2, 0 6 3	3 5 5	354	346	369	秋田 4%
	5ヵ年平均 2023年見通し	1, 5 5 0 1, 5 5 0	3 8 7 4 0 0	391 400	383 400	397 400	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
なし	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	長野を中心に富山、新潟などから入荷す る。4月の低温で、中・晩生種が減少する見 込み。豊水以降に出荷される品種は、霜の 被害があり、入荷量が少ない見込み。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前 年をかなり上回る見込み。						

東京都中央卸売市場

8月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2018年	33,740	430	444	431	414	青森 13%
	2019年	32,344	460	492	462	430	栃木 9%
	2020年	27,127	573	623	574	525	長野 8%
	2021年	30,821	523	542	525	507	山梨 8%
	2022年	33,599	504	547	490	475	福島 8%
果	5ヵ年平均	31,526	495	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
果	2023年見通し	34,500	490	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地概況】	なし、りんご、ぶどうなどが入荷する。りんごは高温により着色遅延が見られる。シャインマスカットは、各産地の栽培面積が増加傾向。					
実計	【概況見通し】	入荷量：前年をわずかに上回る。(＋2.7%) 価格：前年をわずかに下回る。(▲2.8%)					
みかん	2018年	3,311	311	416	311	268	宮崎 30%
	2019年	2,969	302	498	292	268	熊本 24%
	2020年	2,853	324	427	329	291	佐賀 18%
	2021年	3,812	291	425	296	249	愛媛 10%
	2022年	2,695	315	492	315	265	静岡 5%
みかん	5ヵ年平均	3,128	307	449	308	267	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
みかん	2023年見通し	3,000	322	420	295	250	
りんご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地概況】	佐賀のグリーンハウスみかんは、生産量減少傾向。露地の極早生みかんは9月上旬から始まり、生育は順調。					
りんご	【概況見通し】	入荷量：前年をかなり上回る。(＋11.3%) 価格：前年をわずかに上回る。(＋2.2%)					
なし	2018年	9,938	280	298	273	264	栃木 30%
	2019年	9,547	330	343	331	300	福島 20%
	2020年	6,146	504	524	484	493	千葉 15%
	2021年	7,068	371	375	357	382	茨城 14%
	2022年	10,128	335	310	328	362	長野 6%
なし	5ヵ年平均	8,565	351	356	343	348	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
なし	2023年見通し	9,000	333	310	330	360	
なし	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	【産地概況】	豊水は各産地生育前進しており、ピークは前年より早い。降水量少なく小玉傾向となる見込み。					
なし	【概況見通し】	入荷量：前年をかなり下回る。(▲11.1%) 価格：前年並。(▲0.6%)					

注：前年と本年の4、5月は入荷なしにつき単価を0円/kgで表記

切花・鉢花の9月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 8月31日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2018年	1,702	62	
		2019年	1,888	61	
		2020年	1,698	60	
		2021年	1,468	63	
		2022年	1,470	63	
	5カ年平均	1,645	62		
2023年見通し	1,400	65			
概要	愛知、長野中心に入荷。8月の高温、干ばつにより立ち枯れ等被害が出ており、秀品率が低下する見込み。上旬は数量も少ないが、中旬以降入荷も伸びる。彼岸需要もあり、堅調な販売が見込まれる。				
小 ぎ	実績	2018年	1,599	38	
		2019年	1,595	40	
		2020年	1,333	41	
		2021年	1,503	38	
		2022年	1,383	34	
	5カ年平均	1,483	38		
2023年見通し	1,300	40			
概要	愛知、長野、埼玉、岩手からの入荷。夏場の高温の影響もあり、生育は若干遅れ気味。中旬からの彼岸需要期には出荷量も増え、堅調な販売が見込まれる。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	2018年	1,259	40	
		2019年	1,198	47	
		2020年	1,129	42	
		2021年	1,088	47	
		2022年	1,158	50	
	5カ年平均	1,166	45		
2023年見通し	1,160	50			
概要	長野、北海道中心に入荷。輸入は中旬以降彼岸に向けて、増加の見込み。国産は多少の増減はあるが、ダラダラと大きな山なく出荷の予想。				
か す み	実績	2018年	96	134	
		2019年	101	133	
		2020年	108	116	
		2021年	106	150	
		2022年	106	140	
	5カ年平均	103	135		
2023年見通し	100	140			
概要	福島、長野からの入荷となる。福島については枝カスミが昨年より減少し、Lサイズが増えそう。下旬は連休が続き、ブライダル需要の引き合いが強まる見込み。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	実績等				数量 千本	単価 円/本
ゆり	実績	2018年	289	184		
		2019年	329	170		
		2020年	305	162		
		2021年	268	188		
		2022年	278	191		
	5カ年平均	294	178			
	2023年見通し	280	180			
概要	<p>オリエンタルは新潟、北海道、埼玉、岐阜からの入荷。8月中下旬は出荷が少なめであったが、9月上旬には平年並の入荷となりそう。LAは新潟、埼玉から前年並の入荷見込み。鉄砲は兵庫、愛媛からの入荷で、台風の被害も少なく、安定した入荷が見込まれる。</p>					
洋らん	実績	2018年	410	89		
		2019年	514	68		
		2020年	316	91		
		2021年	295	104		
		2022年	299	134		
	5カ年平均	367	93			
	2023年見通し	285	135			
概要	<p>愛知、鹿児島、静岡などの国産品に加え、輸入品が入荷する。デンファレは徐々に増え、アンナも増えてくる。オンシジウムは上位等級が減少し、下位等級が徐々に増える見込み。カトレアは微増、コショウランは輸入中心にほぼ横ばいの入荷となる。</p>					
ばら	実績	2018年	555	66		
		2019年	710	73		
		2020年	628	76		
		2021年	664	69		
		2022年	747	74		
	5カ年平均	661	72			
	2023年見通し	680	75			
概要	<p>愛知、岐阜、三重、山形中心に入荷。暑さの影響が例年に比べ大きく、長い物の発生が少ない。特にSP品種に多く見られる。輸入の入荷もあるが、量は多くない。国内産の状況も彼岸過ぎには徐々に回復してくる見込み。</p>					
枝も	実績	2018年	1,346	51		
		2019年	1,352	55		
		2020年	1,212	55		
		2021年	1,165	61		
		2022年	1,248	68		
	5カ年平均	1,265	58			
	2023年見通し	1,200	65			
概要	<p>8月の高温で露地物の作物に影響が出ている。特にシュウメイギク、ソリダコは出荷が少なく、ワレモコウ、ソルゴー、コウリヤン、コニカル、トウガラシは順調な見込。今年のお月見が下旬と遅めなので、ススキについては適期に出荷できるか心配。</p>					

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラセナ	実績	2018年	19,943	845	
		2019年	23,289	776	
		2020年	23,582	755	
		2021年	21,998	1,084	
		2022年	25,779	958	
	5カ年平均		22,918	884	
	2023年見通し		22,000	850	
概要	<p>輸入原木等の高騰で、原木自体の輸入量も減少しているため、全体的な出荷量は減少と思われる。また、近年は大きいサイズより8号以下のサイズが主軸になると思われる。前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（64.2%）、2位三重（8.5%）、3位沖縄（7.3%）。</p>				
オンシジウム	実績	2018年	2,969	556	
		2019年	2,097	659	
		2020年	2,153	652	
		2021年	1,353	697	
		2022年	1,835	600	
	5カ年平均		2,081	623	
	2023年見通し		1,800	611	
概要	<p>入荷量は前年並。愛知県以外、運賃、コスト増のため、入荷減が予想されるが、出荷時の咲き前が固すぎても販売が厳しく、こまめな出荷が望ましい。前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（83.0%）、2位高知（17.0%）となっている。</p>				
アンズ	実績	2018年	5,810	896	
		2019年	7,888	754	
		2020年	5,583	874	
		2021年	8,428	874	
		2022年	9,031	828	
	5カ年平均		7,348	840	
	2023年見通し		7,000	800	
概要	<p>年々、夏の気温が上がっており、アンズ自体の花色が抜けてしまうことがあり、生産量・出荷量は減と思われる。サイズは6号以下の出荷がメインとなる見込み。前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（87.5%）、2位長崎（6.0%）、3位富山（3.8%）となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
シヤコバサボテン	実績	2018年	21,093	415	
		2019年	23,690	414	
		2020年	17,270	426	
		2021年	22,012	451	
		2022年	22,981	445	
	5カ年平均		21,409	430	
	2023年見通し		22,500	444	
概要	<p>入荷量は減少か。お盆明けより続く猛暑・高温の影響から花の進みが若干遅れ気味。埼玉の山上げ物も今後、残暑が厳しければ山下げしたのちの花落ち等が心配される。9月の敬老需要として特に4～3.5号を中心に引き合い強くなる見込み。 前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(50.2%)、2位愛知(49.1%)、3位新潟(0.4%)となっている。</p>				
シクラメン	実績	2018年	116,605	158	
		2019年	174,798	147	
		2020年	113,397	142	
		2021年	169,086	157	
		2022年	115,183	164	
	5カ年平均		137,814	153	
	2023年見通し		115,000	163	
概要	<p>入荷量は前年並か。9月中旬よりガーデンシクラメン3号の入荷が始まり、4号サイズ以上は10月上旬から徐々に出荷が始まる。残暑や台風等の天候にも左右されるが、9月下旬ころから相場は安定する見込み。 前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位長野(57.7%)、2位愛知(28.6%)、3位北海道(3.9%)となっている。</p>				
カラーコエ	実績	2018年	36,295	205	
		2019年	47,055	199	
		2020年	32,171	230	
		2021年	34,980	249	
		2022年	33,503	242	
	5カ年平均		36,801	223	
	2023年見通し		33,000	245	
概要	<p>入荷量は平年並か。お盆が明けても続く猛暑の影響から開花が若干遅れている。敬老に向けた商品、特に4号以下の引き合いが強くなる見込み。 前年9月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位埼玉(61.4%)、2位茨城(21.0%)、3位岐阜(15.2%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.603
2023年9月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434